

KAIYOU

新聞

へ宿泊研修から海洋について学んだこと

私が、宿泊研修から海洋について学んだことは、2つあります。

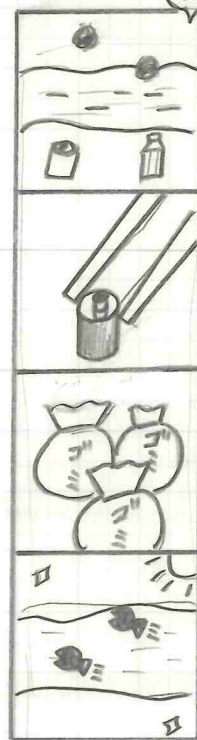
1つめは、川が美しいことはあたりまえではないことです。上流がきれいだと下流が汚れているのは、しょうがないことだと思っていました。それが人間が生み出してしまった事実、あたりにまえにしています。たまたま2つめは、水は様々な人に大切にされていなく、水の恵から生まれる鮎などの命者を守つていくことができません。自然は分が汚さないだけなく、周りの人と連携していき、自然を守つていくことができません。



いこと、気がつきました。そこから自然は分が汚さないだけなく、周りの人と連携していき、自然を守つていくことができません。自然は分が汚さないだけなく、周りの人と連携していき、自然を守つていくことができません。

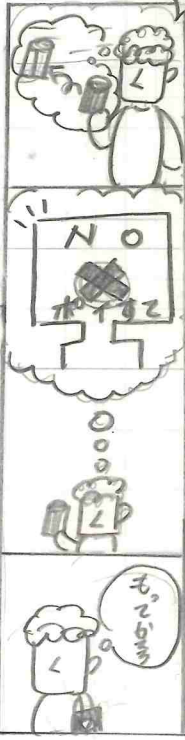
へどのようにして守つていくか

① 今、落ちていているゴミを捨てる。
 ↓ 現在捨ててあるゴミは、誰かが捨てるまでは残つてしまふから。



② 新たな、ゴミを生み出さない。↓ ゴミを捨てないことはもちろん、

が、ただ、捨てるから、人がいるから、捨てるから、ホスターを掲示して、少しでもゴミを減らし、いく活動をする。



① と ② は、ヤ、てもいいじゃないかと、自然を守つていき、考えて

OCEAN

〈研修で学んだこと〉

長良川は長良川システムによって長良川の生態系や美しさを保っている。

そんな美しい川でしか生きられない鮎は「清流長良川の鮎」として

世界農業遺産に認定されている。その周りで暮らす

人々は川の水を町中に張り

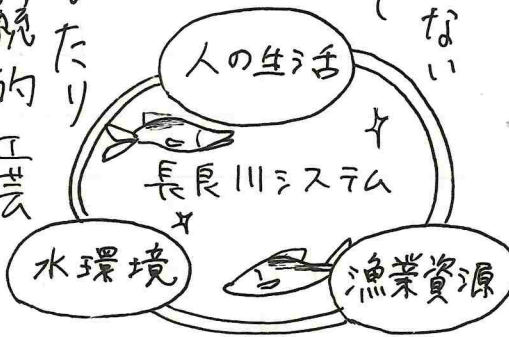
巡らせ生活用水として利用したり

様々な伝統的工芸

の紙をつくるための美濃和紙を作るにも利用されてきた。そんな長良川を

守るために河原の清掃活動や長良川原流の森

の育成などを行っている。



〈これからの私たち〉

● どうしていきたくないか

これから先もずっと

長良川が美しいまま

存在して欲しい。

そして、

おいしい鮎も食べ

たいし、長良橋を

通るときに見える

美しい長良川をこ

れからも見続けて

いきたいと思います。

● そのためにもこんなことを

① 清掃ボランティアに

参加する

② 食べ残しをしない

③ 洗剤は必要以上に

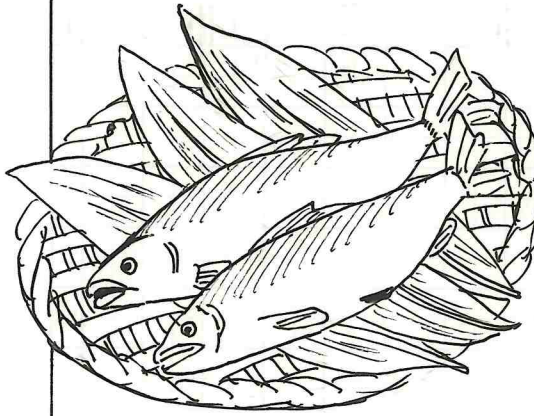
使わない

④ 油は紙などに吸いとり

せてゴミとして出す

⑤ 川や池にゴミを

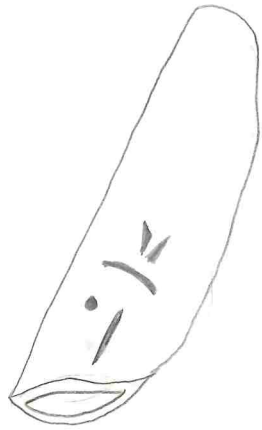
捨てない



清流長良川新聞

へ研修で学んだこと✓

域では美しい清流長良川地
 川を守るために清流長良川
 システムを取り入れ
 川の清掃や生物の保護な
 どのボランティア活動
 行っている。また、川を
 守るだけでなく、また、伝
 芸やその町の生活文化を
 発展させることでも、地
 の人にも自然にも、利益
 あるような、共存共栄の
 の暮らし方をし、てい



へ長良川の魅力✓

☆あゆ(鮎)

息 鮎は美しい川にしか住
 澄んだ川の象徴”とい
 “澄んだ川の象徴”とい
 われている。季節によ
 て異なる味わいを楽しむ
 ことができる。

☆加工品

音 武将(鵜飼)を通
 さきれたり、た鮎は、人
 巻ききれたり、た鮎は、人
 子か”と”い、た和菓
 くまから”愛され、る
 “なまたら”愛され、る
 加工品

へこれからの私たち✓

私長良川中流に住んでい
 る取り組みも無駄にない
 ように、当たり前の川がある
 ことを、当たり前の川がある
 はなく、保護されてきたも
 のである、という認識を持
 て、大切にしていくことが
 重要だと思おう。

ミ拾いなごの環境への配慮
 をして、生活したい。



海洋新聞

〈研修で学んだこと〉

岐阜県北部、大野郡に位置する白川郷。山深い閉ざされた環境で、長良川は貴重な水源となつてゐる。村全体に水路が張りめぐらされておろし、各家庭の前にも貯水池がある。合掌造りの建物にとつて天敵なのが火事なので、防火用水として使われたり、冬の時期には除雪にも利用されてゐる。

また、長良川の特徴として鮎が生息してゐることがある。長良川の恵まれた環境で育った鮎は極めて上質で、それを未来へ守り繋げていくための活動「長良川(里川)システム」も行われ、いる。それにより、GI A T H (世界農業遺産)に認定された。

〈これからの私達〉

私達が暮らしてゐる長良のまちには、長良川の中流域にあたる。今回の研修を通して、流域の白川郷では長良川を清く保つための努力がたくさんなされてゐることが分かった。その努力を無駄にせず、美しい環境を守るために、私達には何が出来るだろうか。

まずは、知る事が大切だ。正しい知識を付けてこそ、正しい判断をすることが出来る。その点においては今回の研修はとても意義のあるものだったと思う。そうして付けた知識をもとに、行動をおこす。は、きりいて、私達の力ではあまよ大きなことは出来ない。しかし、ポイ捨てをしない・食品ロスを減らすなど、間接的に小さなアクションをこすことは自分次第でいくらでも出来る。一人一人が関心をもち、環境保全のため行動することが大切なのだ。



海洋新聞

へ研修で学んだこと、
 今回の研修で、長良川
 は、世界遺産に認定された
 水は、きれいな川だと改
 めて知った。そんな長良
 川では、これからは水と
 美しい自然と生態系を周りの
 人々の文化を中として、
 ために、ごみ拾いをした
 り、うかいをしたりと、
 様々な活動や行事を行
 った。今年もまた、長良川
 のシンボルともいえる鮎
 は、一年しか生かすること
 ができなかが、その一年
 の中で季節にあわせて異な
 る味わいを楽しむことが
 できる。そのように長良
 川では、きれいな水を生か
 した、伝統や生態を守り

へ、二水からの私たち
 長良川中流に住む私
 たちは、上流できれいな
 水を守ってきたので、そ
 のままと保つことが、こ
 ろろおうちにゴミを拾
 ったりして、いくが大切
 だと思おう。また、きれ
 いを保つていくだけで
 は、お魚の生き物をム
 駄目



て、いることを学んだ。

今回の宿泊研修で、
 二水からの生活で、より
 長良川上流での活動を知
 り、二水からの生活で、より
 長良川を意識して生活し
 たいと思いたった。

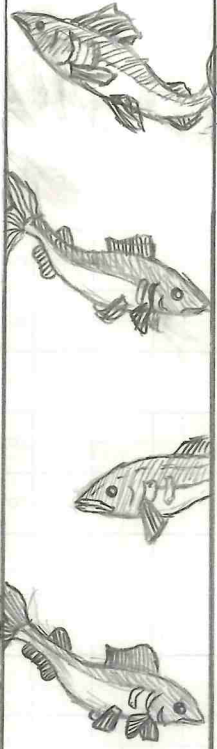


にせお、おいしく食ハる
 ニヒも大切だと思おう。
 うすることで、長良川の
 水だけではない、生態系や
 文化、歴史なども守り、
 いくことにできる。この
 おうに、長良川や、それ
 外でも、自分たちの地域
 の自然や文化を守り、こ
 なために、日常的に意識
 して、いくことが大切だと
 思う。そうして、若い人
 も、様々な活動に参加す
 ることで、伝統をひき継
 ぐだけではない、町と町の
 関わりが増え、町も発展
 していくことができる。

自然共生をしよう

〈研修で学んだこと〉

鮎を食べる過程で命を奪うというのとは、どのようなものか学びました。命に感謝するために、おいしく頂くことであったり、自分が今食べているものは誰かが命を処理していることであつたりを、しつかり頭の中に入れて食に向き合うことが大切だと思ひました。今ある自然がきれいなのも、現地の方々が自然を大切にしているからこそあるものと分かりました。



〈これからの私たち〉

上流周囲に住んでいる方が大切にしている自然を中流周囲に住んでいる私たちが、そこで汚したり、壊したりはしてはいけません。

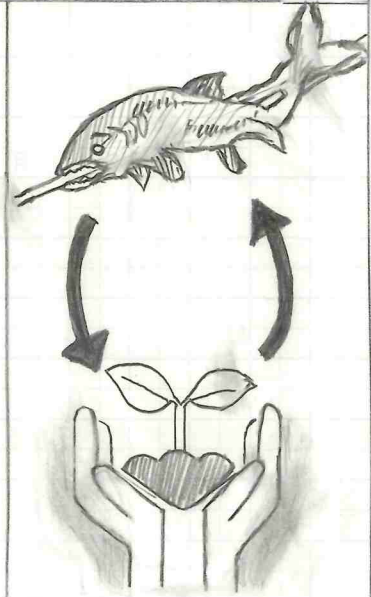


① 美しい自然があたりまえでないことを知ること

② ゴミを捨てる、捨てない

以前に、自然を大切に思へる心をもつこと

これら二つが大切になると私は考えました。



①のためには……

「山豆り」などをし、今の現状を近くで感じる。

②のためには……

「ミニイベント」などを計画し、自然にふれあえる時間をつくる。

そうすることで、実際に体験でき、自然の大切さを感ずることが出来る。